

大会企画シンポジウム

話題提供

演題：「千歳緑小における ICT の活用について」

話題提供者：渡會朋広（千歳市立緑小学校）

内容：

千歳市では、3 か年計画で端末導入が進んでいる。そこで通常学級及び特別支援学級での ICT の活用状況と課題やコロナ禍における長期欠席児童への対応、千歳科学技術大学とのソフト開発の連携と活用等について報告する。

※ソフトについては、数の合成、分解に関して学習できるものを Scratch で開発中と聞いています。

演題：「自らが目的に応じ選択して使うタブレット端末」

話題提供者：林 文也（札幌市立札幌澄川中学校）

内容：

- ① 全校行事でタブレットを使い、行事に参加する。事前に配布された PDF をタブレットモード、PC モード使いやすい方を選択して、自分でスクロール（1 行ごとに見ることができるので、見落としが少ない）しながら、参加することができた。紙より視界に入る情報量が少なく、話を聞きながら文章を追うことができた。
- ② 授業では、キーボード入力、音声入力やタブレットモード、PC モードを選択しながら課題に取り組むことで、導入前と比べ、課題に取り組める時間が大幅に増えた。また、後から見返した時に、蓄積したものが生徒自身にもわかりやすいものになった。
- ③ 不登校の生徒に対して、Chrombook を貸し出し、毎日の生活に 10 分間取り入れる。生活リズムの改善、投稿意欲の増加に繋がった一例。

演題：「個の学びを少しずつ豊かにするタブレット端末」

話題提供者：郡司竜平（北海道札幌養護学校）

内容：

特別支援学校の現場において子ども一人ひとりの特性に応じた支援の一つとしてタブレット端末が位置づいた事例について報告する。タブレット端末を使用する際に必要な実態把握をはじめ、学びのつまずきを補ったり、得意を生かしたりしながら学びが少しずつ豊かになってきている。

指定討論

演題：「作業療法の視点で考える ICT 活用－発達を促す作業の遂行－」

指定討論者：小玉武志（北海道済生会みどりの里）

内容：

ICT の活用は本来もっている能力の補助や拡張を実現し、作業を遂行する一助となる。そのためには個々の障害特性や機能制限をアセスメントした上で、適切な機器の選定が重要になる。特別支援教育では、おもちゃにスイッチをつないだシンプルテクノロジーやタブレット等の身近にあるテクノロジー（アルテク）を活用し、「できた」「わかった」という体験から「楽しい」という次の意欲を引き出すことで発達を促すことがつながる。

本発表では、ICT の活用による合理的配慮や実行機能の発達を促す作業の遂行について解説する。

演題：「ICT 活用のメリットとデメリット～適切なアセスメント・学びの連続性を中心に～」

指定討論者：東原文子（聖徳大学児童学部）

内容：

GIGA スクール構想の実現に伴い、学校教育における ICT の活用が進んでいる。しかし、適切なアセスメント（子どもの実態や特性等）をもとに ICT の活用がなされているだろうか。また、ICT を上手に活用することで特別支援教育が目指す“学びの連続性”が実現できる可能性があるものの、学校現場では連続性を意識されているだろうか。今回のシンポジウムでは、“適切なアセスメント” “学びの連続性”を切り口に、ICT 活用のメリット、デメリットについて議論を深めたい。